

GC サーキット企画
再び発進!
今度の相手は世界だ!!

190Eレースプロジェクト

セパンへの道



M.Benz 190E 2.3-16 Race Project Road to SEPANG!!

目指せ、日本一の190E! レース用にモディファイして、向かうはマレーシアで開催される24時間耐久の草レース。オトナの男たちが、オトナげないまでに190Eを遊び尽くす! 名付けて190Eレースプロジェクト、ここに開幕!

取材協力: G-SONIC (<http://www.g-sonic.jp/>)
スピードジャパン (<http://www.speedjapan.co.jp/>)
(有) RS FINE / (株) 武井企画
190E Race Project 公式ブログ: <http://www.g-sonic.jp/>
撮影=(有) IOS 文=鈴木俊男

190E がマレーシア・セパン 24 時間耐久レースに挑む!



不惑の4人が中心となり
190Eを遊び尽くす!

バブル華やかなりし頃、景気の影響でもあったベンツ190E。六本木の街を誇らしげに流す姿に、誰もが憧れたものだった。そんな190Eも今やずいぶんと価格もこなれ、国内発売開始からすでに23年もの歳月が流れている。にもかかわらず、ベンツならではの車体剛性の高さは健在だ。その取り回しの良さといえ、子供心を忘れないオトナが遊ぶおもちゃとしては、今がまさに旬なのではなからうか。

……という思いつきをふと口にしたのが、チャ武こと、レーシングドライバー・武井寛史。「面白そうだよ、それ」とふたつ返事で応えたのは、無類のクルマ好きである「G・



ボス松原

車両を提供してくれたG-SONICのオーナー。プロジェクトではドライバーも務める。国産外車を問わずクルマをこよなく愛する人。



武井寛史 (愛称・チャ武)

初代日本一速い男! ……に愛称をつけてもらったレーシングドライバー。今年はスーパーGTにシボレーコルベットで参戦中!

集まったのは
個性派揃いの
強力メンバー!!



男臭いレースに潤いを与えてくれるチームの華 G-SONIC エンジェル。今後、取材にもよくよく登場する予定。彼女たちの詳細は、<http://www.g-sonic.jp/> にて!



スピードジャパン小澤

パーツ輸入商社スピードジャパンの社長。ユーザーから絶大な信頼を受ける豊富なパーツ知識は、当プロジェクトにおいても必要不可欠だ。



will コーポレーション小松

輸入車用ワンオフパーツの企画販売を手がける Will コーポレーションの社長。無いものは作ってしまえ! をポリシーとする頼もしい人。

SONIC」のオーナー松原氏だ。意気投合したふたりは、「ベンツで遊ぶならこの人も誘わなきゃ」と、パーツ販売商社「スピードジャパン」の小澤社長に声をかける。

話を聞きつけ、輸入車ワンオフパーツの開発を手がけるカスタマイズショップ「ウィルコーポレーション」小松社長も加わった。みな、若かりし頃にバブルの空気をリアルタイムで味わい、190Eに羨望の視線を向けた世代の男たちだ。オトナらしくスマートに楽しもうぜ。

なんて気分で集まったはずなのに、遊びが始まるやいなや、「やるからには徹底的に!」が口癖。子供心を忘れない男たちというよりは、もはや大人であることを忘れたかのようなオトナげなふたりだ。

ベース車両である88年式の190

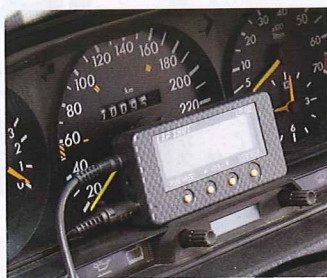


ENKEI製のホイールはモデルRS・05。タイヤは、ADVAN050。セミスリック。サイズ215/45/17だ。移植されたR129用ブレーキキャリパーに収まるパッドは、プロジェクトM製。

日本一、いや世界一速い190Eを目指し
総力を挙げてモディファイに挑む!



MOMO社製のステアリングGT08。手のひらにフィットする感覚は、スウェード製のグリップならではの。オーソドックスなデザインながら、操作性は抜群。



ラップタイムが每周ごとに表示されるシステム。耐久レース中のペースを維持しての走行では強い味方となってくれる優れモノ。ピーコン設置のサーキットであれば使用可能。



WillコーポレーションオリジナルのFRP製ドアミラー。空力を考慮した形状は純正よりも小型。にもかかわらず後方視界はいたって良好という逸品。



キャリパー・ローターの大型化とともにブレーキに施された対策が、この冷却用エアダクトだ。ツインリンクもてぎでの12時間耐久レースでは、その実力を発揮してくれた。



アメリカ製のクールシステムは価格約20万円。灼熱のcockピットで長時間のドライビングを強いられる耐久レースで、ドライバーの判断能力が鈍るのを防止する。



レカロ社製フルバケットシート。セレクトしたモデルはRS・WS。軽量なカーボンシェルの製ながらもしっかりとした剛性感。もちろんホルド感もばっちりだ。



近年のツインリンクカーで主流となっている3D形状のGTウィング。ウェットカーボンのダウンフォースを必要とする高速サーキット走行には欠かせない必需品だ。

今後のスケジュールとモディファイ予定

- ①ダイレクトイグニッション装着
- ②コイルオーバーサスペンション開発
- ③LSD開発
- ④100ℓ安全タンク装着
- ⑤空力パーツの武装(エボII仕様予定)
- ⑥エンジンオーバーホール
- ⑦KTEL無線装着

2009年2月にマレーシアで開催されるセパン24時間耐久レースに向け、下記のモディファイを計画。果たして間に合うのか……。経過は誌面でお知らせするので190の進化に乞うご期待。

NEXTチャレンジ!

10月25日(土) エビス6時間耐久に テストを兼ねて出場!

10月25日(土)、福島県のエビスサーキットで開催される「エビススーパー耐久レース6時間」に滑り込みで参戦決定! 近くにお立ち寄りの際は遊びに来てね!

E2・3・16は、軽量化のために内装を全て剥ぎ取られ、バブルのステータス的なムードはあっさり消え去ってしまったのだ……。そんなオトナこともな面々が手始めに挑んだのは、真夏のツインリンクもてぎで開催された12時間耐久の草レースだった。時間に追われる中、急ピッチで施された車両のモディファイ内容は、サスペンションの変更、ベンツSL(R129)用ブレーキキャリパーの移植、ワンオフ作製のマフラー、空力対策のリアウィングやエアロミラー装着など。草レースではちょっとお目にかかれないクールスーツやドリンクシステムまでも装備した。満足なテストもできずに挑んだレースだったが、なんとノントラブルでの完走を果たしたのだ。思ったよりもイケるんじゃないか。

か……。思惑は各人の中で膨らみ誰からともなく口にされたのが「目指せ、日本一の190!」だった。こうして幕を開けた190レースプロジェクト。ターゲットに選んだのは、2009年2月12日〜13日にマレーシアで開催される「K4・GPセパン24時間耐久レース」だ。草レースとはいえ、なにしろ日本からマレーシアまで車両を輸送しての大掛かりなイベント。我々に勝るとも劣らない本気チームが集まることは間違いない。開催まであと四カ月。車両の改善余地がまだまだあることを考えれば、残された時間はわずか。「目指せ、日本一の190!」は果たされるのか。不惑の四人を中心に、その豊富な人脈を駆使して190を遊び尽くすレースプロジェクト。今後の展開をお楽しみに!